

2. 1つのラリーにおける動きの流れ

- (1) 自分の担当ラインに正対し、写真①の姿勢で直立する。
- (2) サービス許可の吹笛で、サービス側のL Jは、写真①の姿勢のまま、フットフォールトを判定する。レシーブ側のL Jは、写真④または⑤の姿勢で、判定の準備をする。ラリー中は、写真④と写真⑤の姿勢を使い分けながら、判定に臨む。
- (3) ボールデッドになった時に判定する。(写真⑥～⑩)
判定の必要がない場合は、すぐに最初の姿勢に戻る。(写真①)
- (4) 主審が反則の種類をシグナルを示し始める時に、姿勢を戻す。(写真①)

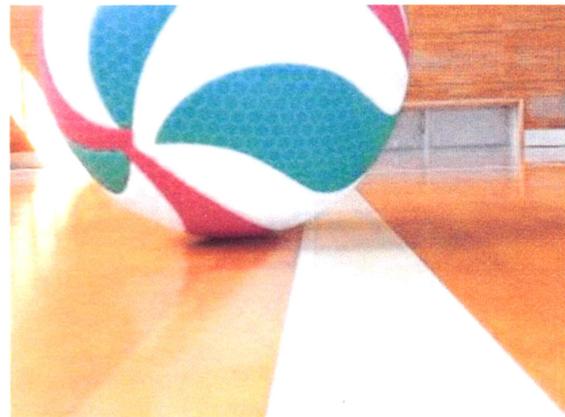
3. 判定のしかた

(1) ボールと床の接点

写真⑪のように、上から見るとラインに接しているように見えるが、実際には写真⑫のように接していない場合がある。そのため、姿勢を低くして見る必要がある。また、このような場面での判定をより正確にできるようにするために、ラインの延長線上に身体を中心が来るように位置して、ラインとボールの接地面を見るようにするとよい。



写真⑪



写真⑫

(2) ライン判定 (図1 および表1)

- ①「一人一線」の原則で、担当ラインのイン、アウト等の判定を、責任をもって行う。
- ②ボールインは、担当ライン内側2m以内について判定する。
- ③ボールアウト(ボールコンタクトも含む)は、自分の担当ラインの垂直面を越えていくボールについて、すべて判定する。たとえ、自分の近くにボールが落ちても、自分の担当ラインの垂直面を越えなければ、自分はシグナルを示さず、他の担当L Jに任せる。
- ④二人が同時に判定する場合(図1-ア、ク)は、のようなコーナーから半径2m以内のインボールや、エンドライン、サイドラインのどちらから見ても、アウトのボールは、二人が同時にシグナルを示す。二人のシグナルがそろうことが望ましいが、差し違いになった場合は、主審の指示に従い、どちらかがフラッグを下げる。